

10月下旬になると、気温は肌寒いくらいになり、紅葉に染まった街並みは彩り鮮やかで綺麗です。10月上旬から10月下旬まで中間試験期間で、学生達は皆疲れた様子で毎日テスト勉強と課題に追われているようでした。私も課題とテストに追われ、この1カ月間は嫌気がさすほど課題と睨めっこしていました。現在はテストをすべて消化し、今度は12月の学期末へ向けて授業内容は後半へと移ったところです。11月下旬には雪が降り始めるらしく、これから急激に寒くなるらしいので、体調管理には気をつけて過ごしています。本報告書では講義について感じたことを少し報告します。



近況

ESL114はドロップしました。語学学校IEIで習った事の繰り返しで、週3時間あるクラスの内容は軽薄でとても退屈でした。課題に取り組むことで、自分のライティングの能力を向上させることが見込めると思っていたので履修を決めたのですが、授業内容は夏の語学学校IEIですでに習った事の繰り返しであり、またその授業内容はIEIに比べて中途半端で、毎回煮え切らないまま終了のベルが鳴る状態でした。また、提出した課題に対してのフィードバックは遅く、そこから得ることは少なかったです。その様な経緯から、授業開始より1カ月半経過後もESL114を受講する事の利益を見出すことができませんでした。英語よりも工学に優先順位をおいていた私としては、このまま受講し続けることはすべてが中途半端になると考え、最終的にはドロップすることに決めました。

講義への出席が求められるクラスと求められないクラス

講義において重要なことは、教科書を通じてでは学習し難い点をわかりやすく教えることができるかどうかだと思います。例えば、私が受講している韓国語のクラスでは、授業のトピックは変わり、そのトピックに関する会話の練習に加え、課題も毎日課されるため、もし出席しなければ3日後にはついていくことが大変になる程、授業に出席することが重要なクラスです。実際、UIUCの語学のクラスは出席することが必須であり、もし3日連続休むとドロップさせられる可能性があります。しかし、私が受講している工学の科目AE321,AE451,TAM470などでは授業に出席することは必須ではなく、課題と実験とテストをこなせば成績が出る評価方法になっています。実際、AE321やTAM470では、授業に来ない学生はたくさんいます。工学系の科目に限らず、出席することが必須ではない科目の出席率は低く、UIUCには講義に出席しない学生は少なくはないようです。授業に出席しない学生の中には、授業に出席しなくても課題をしっかりとこなせば同様に試験も乗り越えられるため、十分良い成績で単位を取得できるという考え方が背景にあるのではないのでしょうか。そこで、疑問に思った点は、出席が必須でない科目において、出席する価値のある講義とはどういうものかという点です。私が現在受講しているAE321のクラスを例に考えてみました。

出席する必要性を感じない講義とは？

AE321のクラスでは、学期始めは100人以上いたクラスが、現在は半分程度の学生しか出席していません。これはドロップしたわけではなく、テストの噂を聞きつけるとしっかりやってきます。なぜ出席する学生が半分程度にまで減ってしまったのか？それは「授業から得ることはすべて配布資料、教科書に書いてあり、それ以外に特筆して何も無い」という点にあると思います。つまり、教科書を読んでいるのと変わらないということです。AE321のクラスでは、授業はすべてパワーポイント(PP)を使います。授業中に教科書は使用しませんが、内容は教科書にも書いてあることです。また、PPのスライドはすべてウェブ上で配布されるので、ノートをとる必要が無く、配布資料と教科書をもとに課題と試験とLabをこなせば良い成績で単位を取得できそうです。講義も伝えたい事はすべてスライドに書かれてあるといわんばかりに、インストラクターは時に質問を交えながらも淡々と説明を進めていくため、あまり講義に出席する必要性は感じません。実際、課題の提出日やテストの時だけ現れる学生が講義に毎回出席している学生よりもテストで良い点数をとるということは珍しくないということを聞いたことがあります。私の場合は、授業に毎回出席しても、授業内容の50%ですら理解することが難しい状況にあるため、授業時間外で教科書を読むことが必要不可欠です。しかし、教科書を読むだけで授業内容の大半を理解することができるので、課題やテスト勉強にはあまり困ることはありません。このように、AE321の様に配布資料や教科書に記載されていることに対して延々と説明をする講義や、教科書に書かれてある例題を授業時間に学生に解かせるといった講義などは、出席せずとも学生自身が自宅で手元にある資料だけで学習することができるので、出席する価値をあまり感じません。

KITでは、単位を取得するためには7割以上の出席率が必要であると記憶しているのですが、その点はUIUCと比較して、出席しないよりは出席した方が多くのことを吸収できると思うので良いと思います。しかし、授業に出席をして講義をきちんと聴講しているからといって授業に出席する必要性を感じさせる内容でなければ、出席点を逃さないためだけにただ椅子に座っているという学生がいても可笑しくありません。実際、KITにも先に述べた様な授業スタイルの科目はあると思います。

出席する価値のある講義とは？

そこで、日本の教科書は学生が自学するにあたって、アメリカの大学で使用される教科書と比較して内容が薄く、学生1人では理解し難い点が比較的多いと思うので、教科書の内容に関して、授業を通じて理解に困りそうな点について補足説明があると役に立つと思います。要点ごとに教科書よりもかみ砕いた説明や類題を授業で扱い、さらに、自宅で授業の内容に加えて教科書を読むことを必要とするような課題を課す、そういった授業体系を提供できれば、学生自身が授業に出席することの必要性を認識し、主体的に授業に参加できる学生が増えるのではないかと思います。また、教員が授業中に学生に問いかけた時に学生が応答・質問しやすいように、学生と教員の間で良い授業の雰囲気を作るような仲を持つ事が大切だと思います。授業の中において気軽にコミュニケーションを持てる雰囲気があると、学生にとってより価値のある講義ができると思います。

授業に関してまだ他にも報告したいことがあるのですが、若干長くなってしまったので11月以降に報告したいと思います。